

国語科学習指導案

1 はじめに

本校では昨年、国語科のパッケージ研修の中で「言語活動の充実」「班活動とは」などをキーワードにして研究を進めた。その結果、「その単元でつけたい力をはっきりさせ、それに向けた課題解決的な表現活動を設定する」、「評価規準を具体的な生徒の姿としてイメージする」、「授業のめあてを具体的に明確に示す」、「生徒全員が自分の頭を使って考えざるを得ない手立てを用意する」、「それぞれの活動の前に目標を提示し、終わったら評価をする」などの方向性を共有した。本研究授業では、その内容を実践するとともに、言語活動の充実に資する班活動等について研究協議で深めたいと考えている。

2 指導案

- (1) 日時 平成 25 年 11 月 15 日 (金) 第 5 時限 (14 時～14 時 50 分)
- (2) 学年・組 第 1 学年 4 組 (男子 19 名 女子 17 名 計 36 名)
- (3) 使用教室 本館 4 階 1 年 4 組教室
- (4) 単元名 いにしえの心にふれる 『蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から』
(光村図書 国語 1)

(5) 単元目標

- ・ 「竹取物語」の学習を通じて、古典文学に興味・関心をもつ。
- ・ 口語訳を参考にしながら古文を読み味わい、自分のものの見方や考え方を広げる。
- ・ 古文の仮名遣いや言葉遣い、古語の意味を理解する。

(6) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 古文を音読して味わうことに関心を持ち、工夫して読もうとしている。	① 古文を音読するために、登場人物の心情や行動、情景描写に注意して読み、内容の理解を深めている。 ② 古文の表現の特徴や効果を捉え、音読の仕方を考えている。	① 文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れている。

(7) 教材観

本教材は、生徒が中学生になって初めて学ぶ本格的な古典文学である。同教科書における教材「いろは歌」で歴史的仮名遣いのきまりについて学習し、「七夕に思う」で和歌を学習した後、この「竹取物語」の学習に入った。「竹取物語」は「かぐや姫のお話」として、知らない生徒はほとんどいないが、物語の全体像をきちんと理解している生徒は少ない。そこでまず、さまざまな絵本や動画などの資料を活用してあらすじをしっかりと理解させたい。千年以上の時を超え、現代にも読み継がれている物語であることを理解させたい。そのうえで、登場人物の心情に思いを馳せ、表現されている古典文学の世界を味わい、自分のものの見方や考え方を広げることをめざしたい。

(8) 指導観

昨年度からの研究を発展させて、言語活動の充実に資する班活動を中心とした授業を展開したいと考え、今回の研究授業では、「竹取物語」のまとめ「紙芝居制作」を設定した。そのために、既習の学習から古典文学に親しみ、登場人物の心情を自分の言葉でとらえながら、班活動によってさらに表現を深められることを大切にしたい。そして、教師主導で教え込むのではなく、生徒が主体的に学び合う授業を展開したい。

(9) 単元の指導計画と評価規準（全8時間）

時	単元の指導計画	評価規準（評価方法）
第1時	竹取物語の範読を聞き、竹取物語についての基礎知識、全体像をつかむ	【読む能力】② (活動の観察)
第2時	古典の基本的な知識に触れる	【読む能力】② (活動の観察) 【言語についての知識・理解・技能】① (ノートの記述)
第3時	「竹取物語」の冒頭の部分を読み、翁の心情を考える	【読む能力】① (ワークシート) 【国語への関心・意欲・態度】① (活動の観察)
第4時	蓬莱山の部分を読み、くらもちの皇子の心情を考える	【読む能力】① (ワークシート) 【国語への関心・意欲・態度】① (活動の観察)
第5時	登場人物の心情、場面描写を自分の言葉で捉えることについて考える。	【読む能力】② (ノートの記述) 【国語への関心・意欲・態度】① (活動の観察)
第6時	富士山の部分を読み、帝の心情	【読む能力】②

(本時)	を考える	(ワークシート) 【国語への関心・意欲・態度】① (活動の観察)
第7時	紙芝居を班で制作する	【読む能力】① (成果物) 【言語についての知識・理解・技能】① (活動の観察)
第8時	冒頭文の暗唱大会をする	【読む能力】② (活動の観察) 【言語についての知識・理解・技能】① (活動の観察)

(10) 本時の展開

① 本時の目標

本時は、「竹取物語」中の富士山の部分を中心に、古文を読み、帝の心情を考えることを主な活動として設定した。そのために、まず自分の言葉で心情をとらえ、その後で班のメンバーと深め合いながら自分の表現を深めることをめざす。次時では紙芝居制作を実施するが、その際に登場人物の視点から自分の言葉で表現させることをねらいとしている。したがって本時からそのねらいを意識させ授業を展開したい。また、「竹取物語」が千年以上の時を超え、読み継がれている物語であり、表現されている世界は現代の我々にとっても身近なものであることを理解させたい。

② 本時の評価規準

【読む能力】

帝の心情について想像を広げて読み、内容の理解について自分のことばで深めている

【国語への関心・意欲・態度】

古典の内容や表現に関心を持ち、すすんで読もうとしている。

③ 本時の学習課程

	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
出 合 う	・ 前時の振り返りを聞く ・ 本時のめあてを確認し、授業の見通しを持つ	・ 本時のねらいを意識し、次時への展開も知る	
	◎「竹取物語」の富士山の場面を読み、帝の心情を自分のことばでとらえよう		
結 び つ け る	・ 富士山の場面の口語訳、文語文を音読する ・ 古典の表現について基礎事項を確認する	・ 既習事項との関連を意識させる	
向 き 合 う	・ ワークシートを用いて、仮名遣いや口語訳を確認する ・ 帝の心情や場面描写に着目して内容理解を深める	・ 個人での理解を大切にする ・ 理解が難しい生徒には、再度本文の現代語訳に立ち戻り、帝がかぐや姫に抱いていた心情を振り返らせる	【関】 古典の内容や表現に関心を持ち、すすんで読もうとしている（活動の観察）
つ な げ る	・ 個人で考えたことを班で交流し、自分のものの見方や考え方を広げる ・ 交流した内容をミニホワイトボードにまとめ、発表する	・ 班で交流する中で、自分の表現をさらに深めることをめざす ・ 班で交流した内容を全体で共有し、追加の発問等で内容の理解を深める	【読】 帝の心情について想像を広げて読み、内容の理解について自分のことばで深めている（ワークシート）
振 り 返 る	・ 自分の表現がさらに深められたことを確認する	・ 学んだことを確認し、次時はこの授業を発展させ、紙芝居を制作することを伝える	